

人権作文に学ぶ

昨年12月の「スマイルフェスタ八女2019」において発表された、人権作文を紹介します。

「二」という救いの手

未継清すえつぎよのさん

(発表当時、西中学校3年生)

あなたは、「フェアトレード」という言葉を聞いたことはありませんか。『フェアトレード』製品を買ったことはありますか。私は、英語の授業で大切なことを学びました。

その日の英語は、『フェアトレード』についての授業でした。その言葉や意味を知っていた私は、淡々と授業を受けていました。すると先生が「この内容は大事だから」と、児童労働についての動画を見せてくれました。児童労働は教科書にも書いてありましたが、私はなんとなく軽く考えていました。解決すべき世界の問題と分かっていても、私には馴染みがなく、実際の現場を見たこともなかったからです。



と思っていた自分に。同時にある言葉思い出しました。

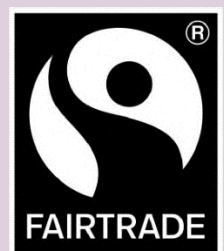
「幸から一を奪うと辛になる」

私の幸せは、この兄弟の「幸」から一を奪ったものではないのか、と考えました。この兄弟と比べると私の生活は間違いなく「幸」でしょう。家族がいて、三食食べて、洗濯された服を着て、学校にも行けます。私の日常は兄弟の幸せそのものです。ならば私は、兄弟の「辛」に一を足したいと思います。「一」という救いの手を差し伸べ、兄弟を含む、働かないと生きていけない子ども達を「幸」に近づけるのです。

その方法の一つが、フェアトレード製品を買うということです。先生が実際に購入し見せてくれました。あの企業の自社ブランド商品だそうです。フェアトレード製品は他の製品より値段が高く売れ行きが良くないが、日本の企業としてフェアトレードについて知ってもらうため、努力して販売を続けていくという話を店員さんから聞いたそうです。

私もフェアトレードチョコレートを買いに行きました。どのくらい高いのか値札を見てみると、若干高めの製品もありましたが、他と同じくらいの値段の製品もありました。「フェアトレード製品は高い」と思い込んでいた私は、中学生でも買いやすい値段に驚きました。

私はこれからもフェアトレード



国際フェアトレード認証ラベル

フェアトレードとは、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」です。

チョコレートを買い続けたいと思います。また一人でも多くの人達にフェアトレードについて知ってもらい、そして買ってほしいです。頻繁には買えなくても、それを買い続けることが、働いている子どもたちを「辛」から「幸」にする、「一」という救いの手となるのです。

人権問題に気づき行動しよう

作文からは、未継さんの他人を思いやる豊かな心や、何事にも積極的に関わり、解決しようとする姿勢、行動力が見てとれます。私たちも、人権問題に気づく感性を忘れずに持ち、誰もが住みやすいまちづくりのために、できることから始めてみませんか。